

男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会

第5回議事録

内閣府男女共同参画局

男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会（第5回）
議事次第

日時：平成29年2月22日（水）13:58～15:15

場所：中央合同庁舎8号館8階特別中会議室

1. 開 会

2. 議 題

男性の暮らし方・意識の変革に向けた課題と方策（案）について

3. 閉 会

○**家本会長** 定刻より早いのですけれども、白河委員は遅れて来られるということなので始めさせていただきたいと思います。

ただいまより第5回「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」を開催いたします。

本日、塚本委員が御欠席でございます。

本日が本専門調査会としては最後の会議でございますが、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、報告書案について議論したいと思っております。議論に入る前に、改めまして本調査会の報告書の今後の扱いについて確認をさせていただきたいと思います。

本報告書は、この専門調査会の報告書として取りまとめられた後に外部に公表するとともに、私から男女共同参画会議に報告させていただきます。

男女共同参画会議においては、来年度の概算要求等に向けて、6月に政府が取りまとめる女性活躍加速のための重点方針2017にどのようなことを盛り込むべきか、3月末ごろから議論が始まります。この具体的な議論は、重点方針専門調査会で行われることとなりますが、今回のこの報告書の内容を踏まえて、男性の暮らし方・意識の変革についても、しっかりと来年度の各省庁の施策につながる提言を盛り込んでいただけることになると考えております。

まず、資料の確認を事務局からお願いします。

○**岡田課長** 今日の資料は2つでございます。

資料1といたしましては、A3横長のカラーで刷ったものでございます。これは概要版でございます。

資料2といたしましては、「男性の暮らし方・意識の変革に向けた課題と方策」、この専門調査会の報告書（案）でございます。

概要版は、報告書の内容の概要として事務局において作成したものでございます。

以上でございます。

○**家本会長** 引き続き、報告書（案）と概要版について説明を事務局からお願いします。

○**岡田課長** 資料2と資料1を使って説明させていただきます。

まず報告書全体の構成は、資料2を1枚めくっていただきまして左側にあります目次を御覧いただければと思います。前回の調査会で方向性ということで見ていただきましたものがベースとなっております。全体としては2部構成となっており、その後ろに参考資料として既に決定された関連の資料がついているということでございます。

A3の概要にお戻りくださいませ。これは先ほど申し上げましたが、報告書の内容を簡単にまとめたものでございます。これに沿って説明させていただきたいと思います。

まず、調査会として報告書をまとめるに至った背景ということで記載しております。報告書では3ページからでございます。2点、大きく指摘しております。1つは男性の家事・育児等への参画度合いが日本の場合は低いということで書いております。

概要の右側に各国、他国との比較のグラフがついておりますけれども、日本の男性の週平均1日当たりの家事・育児関連時間が67分、女性は461分なわけですけれども、各国と比べて特に家事時間が短いということ、また、1日当たりで見た場合に8割あるいは7割の人が行っていないという結果も出ているということでございます。

また、介護・看護を理由とした離職あるいは転職者の中の8割の方が女性であるということをご指摘しております。

大きな背景の2つ目としては、社会構造の変化でございます。社会構造の変化によりまして、男性の家事・育児の参画の必要性が今までにも増して高まっていることを書いております。これは報告書で申し上げますと5ページ以降でございます。介護・看護を必要とする人口が増加していく一方で現役世代の人口が減少している。あるいは育児と介護のダブルケアを行っている方々の内訳を見ますと、それが30歳代、40歳代になっている。また、共働き世帯が増えていき、核家族世帯も増えていっているというような社会構造の変化があることを指摘しています。

次に、この男性の暮らし方・意識の変革を進める意義ということで、ここは先生方にいろいろ御指摘いただいたところでございます。報告書では8ページ以降のところでございます。これを整理させていただきました。

まず家庭における男性が家事・育児等に参画する意義としては、多くのプラス面が挙げられるということで、家庭生活をとって見ますと家庭での夫婦で過ごす時間の増加、満足度の向上、子供に対する好影響があるということをご指摘いたしております。また、職場、職業生活にとっては男性自身のマネジメント力の向上、多様な価値観の醸成など、職業生活でのキャリア形成に寄与するんだということを、主にここは8ページ以降でございますけれども、書いております。

実際に育児休業を取得した方のコメントも引用させていただいております。また、管理職のコメントとして、部下の意識から日常の業務が効率化できていることも記載しています。

報告書では9ページに移るわけですけれども、男性の家事・育児への参画というのは、女性の家事・育児の軽減によって女性活躍が推進されるということも指摘しております。また、企業では男性、女性を問わず多様性を持つ従業員の活躍ということで、それが企業の成長に不可欠であるということで、業績へも好影響が出てくるということをご指摘しております。先ほども申し上げましたが、管理職が生産性向上を実感できるということも記載しております。

報告書では11ページでございますけれども、概要版ではちょうど真ん中あたりの右側でございますが、男性の家事・育児時間が長くなるということで、第2子以降が生まれる割合も増えているという結果も紹介しながら記載しております。

概要には記載していませんけれども、報告書の11ページでは、男性が育児をきっかけに地域活動に参加することを通じて、男性の方々も自身が新しいネットワークをつくるこ

とができるといった地域活動への参加のメリットも書いております。

概要に載せているグラフは、ここは報告書で言いますと図表14と図表15でございますけれども、今、申し上げました休日の家事時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高くなっているということですか、結婚相手にどういったことを望んでいるかという調査結果を載せております。これが意義として書かせていただいたものでございます。

どういった方々を施策の対象とすべきかということで、報告書としては14ページからでございますけれども、家事や育児への参画ということについては、広く国民一般への働きかけが必要であるということはそうなのでございますが、特に念頭に置くべき層としまして3つ挙げております。子育て世代、その中でも家事・育児にほとんどかかわってこなかった男性をターゲットにすること。2つ目としては、職場関係者や親世代ということで挙げております。これはその男性の家事・育児の参画、実際の行動に影響を及ぼすだろうということでございます。また、子育て世代の予備軍である若年世代も対象とすべきということで整理いたしております。

概要の裏面でございます。ここからは課題として幾つか整理させていただいております。報告書では17ページ以降でございます。

課題の1つ目でありまして、男性の家事・育児などへの参画について、ポジティブに捉えられるように広く発信していく取組が重要であるということで、文章としては17ページの上のほうであります。整理しております。

2つ目としまして、男性の家事・育児への参画に向けて職場の意識を改善していくということで、これは報告書、18ページでありますけれども、指摘しております。ここでは民間企業でのいわゆるイクボスに関する取組が進められているということも記載しながら、職場の意識改革を進める必要があるということで整理しております。

報告書では19ページのところでございますけれども、育児に主体的に関わるための育児休業などの取得を促進する必要があるということで、19ページでは上のほうでは育児休業のこと、また、下の段落では国家公務員の休暇、配偶者の方が出産された場合に取れる休暇について記載してございます。

課題の次でございますけれども、家事や育児に対する男性の知識やスキルを向上させていくということも課題ということで整理させていただいております。それが報告書の20ページでございます。家事や育児などに対する知識やスキルが不足しているということの不安も解消することが必要である。その知識やスキルのギャップを埋めるための支援を充実させていくことも有効ということで整理しております。

次の課題としては、家事・育児等の軽減ということで、家事・育児移動における利便性を向上させること、また、乳幼児を伴って移動する場合あるいは外出する場合の負担軽減の促進を行っていくことが課題であるということ整理しております。これは報告書の20ページから21ページにかけて記載をしております。

以上が大体2つに分けたうちの1つ目の意識、背景、意義、課題ということで考え方を

整理したものでございます。

報告書の22ページ以降は、具体的な取組についての提言をまとめているところでございます。大きく分けて3つございます。1つは報告書の22ページ、概要で言いますと、左側の上のところでございますけれども、男性が家事・育児等を行うことの意義の理解促進に関して世論を形成していくこととございます。これについては政府、NPO、企業などで、これまで個々に実施されてきましたおのおのの取組を相互に連携させて、相乗効果を発揮できるように政府として進めていくということを記載しております。

1つ目としては、家事・育児等への参画の促進に向けて、各界のトップを巻き込んで連携を図るということで、これは22ページに書いておりますけれども、例えばということで官民での連携体制を活用して、組織トップの取組を促進するすとか、企業による男性の家事への支援、また、家事のポジティブイメージを発信するといった取組の促進。また、男性の家事への参画を支援する企業の表彰というものも検討すべきということで指摘をしております。

23ページでは、男性が家事・育児等への参画を自らのことと捉えるような取組の推進ということで記載しております。1つ目はアのところでありまして、男性も対象であるということ。特に育児の関連施策において男性も対象であるということが分かるようにしていくこと。2つ目としては、育児に関する啓発というものが言われていますが、それに加えて男性の家事への参画についても啓発を促進していくこと。3つ目としては、家庭内のコミュニケーションの促進を図るということで、例えば括弧内でございますけれども、家事や育児の分担というものを見える化しまして、話し合いを促すためのワークシートなどを内閣府でつくったわけですが、そうしたものの活用などもあるのではないかとということで記載しております。

概要の下のところに写真を載せておりまして、そのワークシートの図柄ですとか、その隣は2人で話し合っているような写真を載せているところでございます。

そのほか報告書25ページに行っていただきまして、さまざまな媒体を活用して広報展開を図っていくということでございまして、第3回の専門調査会でもお話がありましたけれども、スマートフォンなどのICTを活用すると男性の家事・育児の参加が促進されるというお話もありまして、それを書いております。また、男性の家事・育児などの参画の現状を可視化したポスターの作成・配布なども行っていくということを記載してございます。

取組の2つ目としましては、男性の家事・育児等への参画機会の創出ということで、参画する機会を増やしていくということでございます。報告書では26ページでございます。結婚ですとか、お子さんの出生など、個人のライフスタイルが変化する機会を男性が家事・育児に取り組む契機と捉えて取組を充実させることを記載しております。その際に必要に応じて期間を限定したり、男性を対象を絞るといった取組などについても検討を進めると書いております。

そこでは大きく分けて2つ整理しておりまして、1つ目は子の出生に伴う休暇・休業取

得の促進を進めるということでございます。報告書では26ページから27ページでございます。育児休業の取得を促進するべく、まず対象となる男性や事業主に対して現行の制度、支援の周知徹底を進めること。また、先ほど国家公務員のことを申し上げましたけれども、国家公務員の男性職員が配偶者出産休暇ですとか、育児参加のための休暇を取る目標が立てられているわけですが、その目標を達成するための取組を実施することを記載しております。

2つ目として、地域における参画機会の創出に向けた取組の推進ということで、これは報告書の27ページから28ページにかけて記載しているものでございます。いろいろな講座が開催されているわけですが、こういった講座により多くの方々が参加しやすいように、就労中の男性も参加しやすい講座開催の工夫をしていくこと。また、ほかのイベント、行事との連携ということで、国や地方公共団体が実施する行事やイベントを、男性の家事や育児等への参画の契機として活用するというのを記載しております。

取組の3つ目としましては、28ページ目からでございます。家事・育児等を軽減する取組の推進ということで、概要では左下でございます。男女問わず、仕事と家庭の両立を図るために家事・育児を軽減することも重要ということで書いております。

2つありまして、1つ目は課題のところでも指摘しております乳幼児を伴う移動についてでございます。乳幼児の育児期間中における外出時の負担を軽減するという。これは乳幼児連れですと、いろいろな荷物も増えることが多いということで、そういった外出時の移動がしやすくなる取組を検討すべきということで、整理しております。

2つ目としては、第2回の調査会でヒアリングをした案件でございますけれども、乳児用液体ミルクの開発・普及に向けた取組の推進ということで、ここでは29ページ以降、液体ミルクとは何かということを書き、また、その開発・普及をめぐる状況はどういうものになっているかということ30ページで書いてあるわけですが、31ページで今後の取組の方向として、液体ミルクの製品化に向けた取組を国、地方公共団体、事業者団体、民間企業等が連携して加速するべきということで記載しております。

報告書では文書、また、いろいろ図表を使いまして記載しておりますけれども、そのエッセンスのようなものをA3の表裏の計2ページで整理させていただきました。

ごくごく簡単でございますけれども、中身の説明をさせていただきました。

以上でございます。

○家本会長 ありがとうございます。

今日はこの後の時間は、この報告書（案）について既に事務局からお送りをさせていただいておりましたので、目を通していただいていたと思うのですが、それも踏まえて重ねていただいても結構でございますが、報告書（案）について委員の皆さんから御意見をいただきたいと思っております。

ということで、残りの時間はほとんどこれに充てさせていただきたいと思っておりますので、早速進めていきたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。よろしければ和泉委員から順

に当てさせていただいてよろしいでしょうか。

○和泉委員 どのレベルのことで申し上げたらいいのか分からないのですけれども、幾つかいいですか。まず「はじめに」のところで、「男性の暮らし方改革」という言葉が「働き方改革」と同じように、あるいはそれに準ずるぐらいに世の中に広がっていくことはすごく大切だと思ひまして、細かい施策はさておき「女性活躍」に続く「男性の暮らし方改革」そのものの考え方、が広がるのが、この委員会の意義としてとても大きいのではないかと思います。

あと、結構はっきりいろいろと書いてあるところもあって、率直に国が掲げている数値目標がほとんど国民の間で知られていないという現実が指摘されていたり、また、14ページで、重点対象が3つ、若い人と、職場の人と、親世代といったことが明記してあり、その点がよかったと思っています。

一部細かいことで恐縮なのですが、2度読んでみて、3ページの3段落目が一度ではすら理解ができなかったです。書きぶりが分かりにくいかなと。1回切ったほうがわかりやすいのではないかと。細かいことでごめんなさい。

あと、4ページの図表3の後の「さらに、介護や看護を理由とした」というこのつながりがすごく唐突感があって、若い人の話のはずが、急に介護が出てきたところで、ちょっと思考が飛びました。

一番分かりにくかったのが6ページ目のダブルケアのところ、レイアウトの問題かもしれませんが、育児と介護の2つのケアを同時に行う、いわゆるダブルケアを行っている年齢層が30歳代から40歳代で、全体の約8割を占めると言うのと、30歳代から40歳代の8割の人がダブルケアを行っているように読めてしまいます。次のページのグラフを見ると意味がわかるのですが、目を分けて読んでも2度ひっかかりました。

8ページ目の満足度の向上につながるというところがありますね。「2 男性の暮らし方・意識の改革を進める意義」で満足度が何の満足度なのかがわかりませんでした。暮らしに対するですかね、夫婦間のお互いに対するですかね、何の満足度が上がるのだらうと思ひました。

22ページの各界のトップを巻き込んだ官民の連携で、「調和推進官民トップ会議」を行うなど企業を巻き込む施策や、私としては最も重要だと思ひている休暇の取り方について触れている一方で、例えばGoogleなどを使ったスケジューラーの管理など、割とすぐに普通の人でもできそうなことまで踏み込こんでいたりして、また、広く大きな話から一人一人ができることまで網羅的で、バランスがとれていると思ひました。正直、最初に読んだときは、ミルクの話だけ妙に具体的で割合が多いなと思ひたのですけれども、若干2回目は慣れたのか気にならなくなりました。

最終まとめの場にはふさわしくない細かいコメントだったかもしれませんが、以上です。

○家本会長 ありがとうございます。

いろいろ御指摘いただいてありがとうございます。細かいところでも逆に今日がもう最

後の会議なので、気づいているよというのがあればどんどんいただければありがたいですし、もちろん大きなところで、今までの議論を踏まえてきたところなので、入れられるところについていろいろ工夫しながらなのですけれども、もちろんそこについても御意見をいただけたところがあればと思いますので、よろしくお願いします。

そうしたら順番によろしいですか。伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 何回も申し上げましたように、経済同友会ではまだ女性の活躍推進のほうに重点が置かれていまして、男性の暮らし方・意識の変革というテーマでこうやってまとめられたというのは、私どもにとっても非常に重要だと思っています。

内容的にもほとんど私には違和感はありませんが、施策の対象が子育て世代予備軍である若年世代までになっているのですが、私はもっと小さいころから刷り込まないと、なかなか意識は変わらないのではないかと思います。ある程度固まってきたときに刷り込むのはなかなか難しいので、もう少し小さいころから性別役割分担のこととか、そういうものが固まらないうちに男性も家事をやったりということなどを何のためらいもなく受け入れるよう、初等教育の段階からやったほうがいいのではないかと。当面の施策としてはそれぞれでいいかと思うのですが、長期で見ると、三つ子の魂百までではないですけれども、小さいころからやったほうがいいのではないかと。一番私は気になったということです。

○家本会長 ありがとうございます。

川島委員、よろしいですか。

○川島委員 非常にすばらしくまとまっていて、感動さえした覚えがあります。私も何回か欠席している割には、僭越なことを申し上げて大変申しわけなかったのですが、非常にまとまっていていいなと思った次第です。

そんな中で、ほとんどポジティブな話しかないのですけれども、特に修正という意見はないのですが、1つは時々書いてありましたけれども、男性自身の仕事能力がアップということ、この文章でするかどうかは置いておいて、強調してもいいのではないかと思います。まとまったA3のほうにも男性自身のマネジメント力の向上とか、職業生活におけるキャリア形成の寄与とありますけれども、そのようなことももう少し具体的に、いわゆる子育て力というのは管理職力と同じなんだよとか、いわゆる親力と上司力は全く基本原則は同じなんだよとか、いわゆる段取り力が身につくんだよとか、経済感覚が身につくとか、コミュニケーション能力が高まるとか、あるいは地域に出ていくことで人脈や視野が広がるとか、随所に書いてあると思うのですが、より男性に具体的なメリットが見えたほうがやるではないですか。抽象論で言うよりも、これをやったらこんなことが得られるという、こんなことというのがあったほうが男は動きやすい人が多いと思うので、その1つの大きなことが仕事能力が高まるということ、できればもっと強調しながら具体的にどのようなことが高まるのかというのが触れてあると、イメージが付きやすいかなというものが1つ思ったところなんです。

2つ目に思ったことが、これも随所に書いてあるのですけれども、どこかでまとまっていたらいいと思うのが、いわゆるステークホルダーにとっての意義というのが簡潔にまとまっているところがあるといいなと思います。ステークホルダーは今回で言うと男性自身はもちろん、男性というか夫ですね。それから、妻、子供、企業にとってもプラスです。行政にとってもプラスです。地域社会にとってもプラスという、ステークホルダーが6者いて、それぞれ全員プラスで誰も損をしないんだというようなことも、どかんとどこかにイメージでステークホルダーの絵が描いてあって、何かあるとすごく伝わりやすいかなど。誰も損をしませんよ。具体的に損することを挙げてくださいと逆説的に言いやすくなると思うので、というのが2つ目の私のコメントです。

あとはどうでもいいコメントかもしれないのですけれども、これは前回は申し上げたとおり、ここには書けないかもしれないのですが、男性活躍推進法みたいなものをぜひつくってほしいなと思います。前回、委員会の後、私のメンバーの何人かに聞いたら、それいいねと言ってFacebookのいいねが580ぐらいついたのですけれども、先ほどの例ではないですが、男性の暮らし方改革みたいな感じでもいいです。何かキャッチーな言葉で世に出るとすごくいいなと。女活があるなら男活みたいな感じで。

それと多少近いかもしれないのですけれども、例のプレミアムフライデーなんてあれは大成功です。あれだけ浸透度が高いものはそうそうない。あんな一気に企業から一般市民まで。何かそのような、先ほどの男活がいいのか、プレミアムフライデーみたいなある特定の日を設定するのがいいのかわからないのですが、何かキャッチーなことをやるとすごく、ずっとみんなに入ってくのかなというのが私の3つ目のコメントです。

私からは以上です。

○家本会長 ありがとうございます。

では、古平委員、続けてお願いできますか。

○古平委員 まず一番最初に感想にはなりますが、今回の報告書の全パートを拝見し、男性の暮らし方・意識に関する情報が1つの報告書として取りまとめられたということに非常に価値があったと改めて感じました。この専門調査会の意義と重なるところですが。

報告書でもし加えることが可能であるならば、世論形成のところですが、男性の暮らし方、家事・育児については個人の問題、家庭の中で解決すればいい問題として捉えられているが、そうではなく、社会全体の問題として取り組む課題である、そのような世論形成が必要であるという点をしっかりと記載した方がいいかなと思っております。それが恐らく先ほど川島委員がおっしゃっていたステークホルダーにとっての意義というところとリンクしてくると思います。それを明確にしていけないとなぜ世論を形成していかないといけないのという点がぶれると改めて思っています。その点だけ気になっているので、つけ加えさせていただければと思います。

○家本会長 ありがとうございます。

続けて白河委員、お願いできますでしょうか。

○白川委員 この男女共同参画の委員会の中に、男性の専門分野ができたということも大変素晴らしいと思っております。本当に女性のことを割とメインでやっていた時代から、男女とものをやっていく時代に移り変わってきたという感じがはっきりしますので、ぜひ広く周知していただければいいなと思っております。

それで2、3点申し上げるとしたら、最初の1ページのところなのですが、政府がこれまで進めてきた全ての女性が輝く社会の実現という言い方なのですが、男性の暮らし方というのは、どうしても企業の人はかなりステークホルダーとして握っている部分が大きく、企業の上の人の考え方が変わらないとなかなか難しいので、女性活躍推進も成長戦略として打ち出されたことによって非常に進んだというところがありますので、ここに成長戦略としての女性活躍推進の実現にも寄与するという一文をつけ加えていただけたらいいなと思っております。

やはりこれの大きなステークホルダーである会社の人たちにその辺はわかっていたかというか、それから、海外のヨーロッパなんかの国では、男性の育児は国の競争力と子供の育成に必要なものとされているのです。女性が働いてくれるほど国の競争力は上がりますし、子供の成長にも多くの人に関わったほうがいい。お母さん1人よりはお父さんと2人、そしてお父さんとお母さんだけではなく多くの人たちというのが今、多くの研究者の中では普通の理解となっておりますので、ぜひそのところはそういう大きなことといたしますか、海外ではもうそのようになっているんだよというか、そういったことを何かどこかで打ち出していただきたいなと。国の競争力にかかわるような重要なことであるということです。

もう一つが、大変うれしかったのは23ページなのですが、具体的なところに入りますが、広報啓発資料に男性の姿が掲載していない育児関連の施策の資料というところがあるのです。これは本当にいつも問題だと思っていまして、母子という言葉が法律に入っているのではないのですが、子育てに関して常に母子、母子という感じになってしまうので、母子という表記ではなくて、広報資料の写真から何から男性も担うものであるというところをもう少し印象づけてほしいなと思って、それもこれをぜひ少子化担当の人たちに周知徹底してほしいのです。なぜなら男女共同参画担当の人は分かっているのですけれども、今、子育て関連の施策とか、少子化関連の結婚支援とか子育て支援的な啓発活動をしているのは、全部少子化担当の方たちなのです。その方たちの意識の中で子育て支援という母子になってしまうのです。ネウボラの写真なんかほとんど母子の写真しかないところがとても多く、少子化担当者とかでそういった冊子をたくさんつくるような人たちのところに、ぜひ周知徹底してほしいなと思っております。

もう一点なのですが、少子化の記述が11ページにあります。男性の家事や育児関連時間が長い世帯ほど、第2子以降の子供が多く生まれている。このあたりは多分、少子化というのは政府の重要項目でもありますので、ここがないと本当に第2子、第3子は生まれないんだということは、国際的なデータでも結構男性の家事・育児時間の長いOECD諸国ほど

子供が生まれていて、短いところほど生まれていないとか、あと、これはどこのデータだったかな。男性の無償労働時間が長いほど、少子化ではないみたいなデータもどこかにあるのです。なので少子化というワードは一億総活躍の目標の中にも入っていますので、そこはぜひ少子化にも本当に影響があるんだよということを、割と後ろのほうに書いてあるので、もっと最初のほうに書いてほしいなと思いました。

働き方改革に関しては今まさに取り組んでいるところなのですが、この働き方改革と男性の暮らし方改革がまさに同時進行になっているところが書きぶりの中にあらわれていて、非常にうれしいと思っています。その働き方改革の中でも男性の長時間の働き方、それから、場所や時間の柔軟性のない働き方といったものが男性の家庭参画をも阻害しているのだということも、できたら働き方改革と絡めて最初のほうにもう少し詳しく書いていただけたらいいなと思いました。

以上です。どうもありがとうございました。

○家本会長 ありがとうございました。

続いて鍋山委員、お願いします。

○鍋山委員 私は研究で日ごろからこのようなデータとか、このような視点でいろいろ見ているので、報告書を読ませていただいたときに、逆にあまり目新しいことがないというか、いろいろ背景や課題などを余すところなくまとめられていたので、とてもおもしろかったですけれども、具体的な取組のところを見たときに、もう少しこれをどうやるのかというのが実は大事で、欲しかったところでした。具体的な取組とは書いてあるけれども、取組の方向性ということになるかなと思いました。先ほど会長から、私たちの報告書を受けて、今度は男女共同参画会議で具体的に落としていくというお話を聞いて安心したのですが、そういう意味で言うところの方向性でもちろん問題ないというか、この方向で行ってほしいなと思いました。

同時に、委員の皆さんおっしゃいましたけれども、働き方改革とか女性活躍と同じレベルでというか、男性の暮らし方改革を一体的にやっていくんだという方針を表に出してもらおうということは実は非常に第一歩として大事なことで、そこをまず表に出すという意味で言うと、非常に今回の取りまとめというのは意義があるのではないかと思います。

あと、古平委員も白河委員もおっしゃっていたのですが、これを読んでいると危ない方向に向かってしまう危険性があるところは、母親と父親が育児をしますというふうに家に閉じてしまうような方向で読まれてしまうと怖いなと思います。もちろん社会みんなで子育てをします、地域もやりますというところを前提として、しっかり置いておいて、母親だけではなくて父親もやりますよという両面を出さないと、介護もそうなのですけれども、家族だけにやらせるのかというふうに誤解されてしまったら怖いなと思いましたので、そこら辺も同じように強調しながら書いていっていただけるといいのではないかと思います。

具体的な方策が出てきていたと思うのですが、ロールモデルですね。男性で先ほど育児

参画、家事参画というのが仕事のスキルにもプラスになるというところで、そういうロールモデルみたいなものを出していくというようにすれば、女性活躍もロールモデルが大事なのですが、そういうところも1つ強調できればなと思いました。

とりあえず以上です。

○家本会長 ありがとうございます。

西本委員、お願いします。

○西本委員 私からは、今の鍋山委員からも意見が出ていましたが、具体的にどういう新しいものを出していくかというのが、見えないなという感じがしています。今後予算というか概算要求する中で具体的にしていくというお話がありましたので、そういう意味ではぜひそういう形で新しいものを出していただきたいと思います。

私も男性の暮らし方について議論する場をつくっていただいたというのは、本当によかったと思っています。そして、プラス思考で書いていただいたのが非常に良かった。特に意義のところプラス思考で書くのであれば、もっとアピールするような形で書けないのかなと考えています。

例えば「家庭にとっては」とか、「男性にとっては」「女性にとっては」「企業にとっては」「社会にとっては」、そういう意義のところを少し強調していただくとメリハリがついてくるのかなと。見た目ではっと見えるというか、せつかく議論をしたのでもう少し工夫していただくといいなと思います。「はじめに」は読んでいて非常に勢いのある文で書かれている。男性にとっても非常にプラスになり、関わらなければ損とか、そういう面では見せ方を少し工夫すると、今まで議論したことがわかりやすい。そして、そういうことをすると地方でも、ムーブでは結構男性の講座はたくさんやっているのですけれども、今から男女共同参画センターもたくさんやっというムーブメントができるのかなという感じがいたしました。

以上です。

○家本会長 ありがとうございます。

三木委員、お願いします。

○三木委員 まず感想としては皆さんと同じくすごくよくまとまっていて、いいなと思いました。その中で2点だけ、違和感というわけではないのですが、もう一步欲しいなと思った箇所がありましたので、その箇所が23ページの男性が施策の対象であることの明示というところで、ここは私はものすごく大切な部分だと思ひまして、その中で「男性、女性とも掲載する」とかというふうにあるのですけれども、もちろん男性、女性とも両方掲載していくことは重要なのですが、もう一步、男性に向けての広報啓発資料の発信というか、多分、私自身が父親であるという立場から見たときに、男性も女性もという、そこに男性という言葉がただ入っているよりも、むしろ男性に向けての何かといったようなもののほうが目に入るし、手にとりやすいなと思っています。なのでここはただ男性、女性を同じように並べるだけではなくて、男性に向けた情報発信も1つ追加できるとさらにいいのか

など思いました。

もう一点、これはここで言うことではないのかもしれないのですが、26ページの資料、ポスターの図が載っていると思うのですが、これはこの会議が始まる前に決まっていたことなので何とも言えないのですが、男性の家事時間を150分にしましょうということで、いくらか増加をさせるという目安は書いてあるのですが、別に女性の家事時間、育児時間を減らしていきましょうということは特に載っていないのです。これは男性がただ単純に増えていったら、日本はすごい家事・育児時間大国みたいになっていくのではないかとこのころで、この資料の中にも家事・育児等を軽減する取組の推進というようなことは28ページと20ページ、何カ所かにわかって載っていたと思うのですが、ここの部分とかで女性の家事・育児時間というか、偏り過ぎているからそこをもっと世界的に見ても減らしていけることができるのではないかなというように入るといいのかなと。男性の家事時間を伸ばすということだけではなく、減らしていくこともすごく重要なのかなと感じました。

以上になります。

○家本会長 ありがとうございます。

山本委員、お願いします。

○山本委員 私は会社がICTの会社なので、ICTについてコメント、このようにもし修正が可能であればできないですかというお話と、これが追加できないですかというお話をさせていただきたいと思っております。

25ページなのですが、ICTという言葉を入れていただいたのと、Googleの調査のお話を引用いただいて、大変ありがたいのですが、基本的にはこれは媒体を活用した広報というよりも、私がプレゼンをさせていただいた趣旨としては、どちらかというところのウの家庭内のコミュニケーションの促進というところと近くて、結局その家庭の中でのコミュニケーションのミスとかロスが、男性側もやりたいと思ってもなかなか参加できないというところにつながっている中で、23ページの下から5行目あたり、もちろんワークシートというところもすごく大事ななと思っているのですが、もう一つ、もしスケジューラーの共有という話をさせていただけるのであれば、こちらに入れていただいたほうが、私がプレゼンさせていただいた意図としては近いかなというのが1点ございます。

もう一つは、これを全体読んでいて、私もいろいろまとまっておもしろいなと思っていたのですが、1個ちょっと話し忘れていたというか、もし追加で、この期に及んでというのがあるのですが、目線としてあるかなと思ったのが、25ページでスマートフォンももちろんそうなのですが、SNSの利用者は7割とわざわざ言及しているので、もしこのエのさまざまな媒体を活用した広報というところにスマートフォンとかICTというものが入るのだとすると、ソーシャルネットワークなどで家事とか育児をやっている人の生の声が今流通していないというか、結局、いろいろな報告書の中に載っているデータを見ても、基本的には同調圧力で何となくとりづらい、何となく家事とか育児に参加

しづらいとか、職場に言いづらいというのがあると思うのですけれども、逆にソーシャルネットワークはポジティブな同調圧力というか、自分の周りの人がやっている自分もやれるのが普通かなと思うとか、ちょっとやってみようかなと思うという効果があると思うので、なるべく既にやっている方の生の声を、スマートフォンでみんな色々なソーシャルメディアで投稿していると思いますので、そういう生の声を生かして、それ自体を広報として、生の声として今、既にやっている人がこんなにうれしいんだとか、こんなにいいことがあるんだということが広報のツールとして使うというのは、実は1つあるなどこの報告書を読んで思ったので、それを最後にコメントさせていただきます。

以上です。

○家本会長 わかりました。ありがとうございます。

今、一巡して御意見を伺ったのですけれども、ほかの方の御意見の中で逆にこういうところに気がついたとか、追加でみたいなお話はございますか。白河委員、お願いします。

○白河委員 今さらに申しわけないのですけれども、一応、家事・育児と目標はなっているのですが、やはり男性の暮らし方がメインテーマですね。そうなってくると独身とか子供のいない人が全くここには触れられていなくて、日本は全ての女性が結婚したとしても300万人の独身男性が余る国と言われていています。中国は3,800万人ですけれども、なので、その人たちに何も触れないというのもあるかなと思って、もし何か入れるとしたら例えば若いときからちゃんと有給休暇などを取ったりとか、5日以上の休暇をしっかりと取るような習慣がないと、結局この男性たちが家事や育児で休暇を取ったりすることも、父親になったときにそういうことがあっても理解されないし、独身とか子供がいない人とそうでない人の溝が深まるばかりなのです。ですから若いときは死ぬほど働けとか、独身のうちは死ぬほど働け、制約時間がないうちは全部会社に捧げろというのがそのままだと難しいと思うので、将来のそういうことに備えてと言うのもおかしいから、全員が結婚したいわけでもないで。何と言うのでしょうか。

この前、可処分時間という言い方を若い方がしていて、なるほどなと思ったのですけれども、独身も含めて可処分時間をいかに使うかということをや若いうちからちゃんと考えるみたいなことも何か入れたいなど。そうしないと、多分そういう長い休暇を取ったり、有休を取ったりするような習慣がないと、男性の育休は絶対に推進できないのです。フランスとかドイツで男性の育休が徐々に普及してきたのは、長い休みを取るのが当たり前で、逆にある休みは取らなければ損という考え方が国民全員にあるからなのです。ですから育休でも何でも休みがあるのだったら取らなければ損。権利なのだからという気持ちがすごく強い国民なので、育休もあればちゃんと取るとか、産休もあればちゃんと取るというふうになってきたのです。なので休み方みたいなこと、休みを取る。別に制約時間のないときからちゃんと休みを取っていくことも、何か含められたらいいなと思っています。

○家本会長 ほかの委員の皆さん、いかがでしょう。伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 形式論なのですけれども、「はじめに」があったら「おわりに」で結びがあ

ってもいいのかなど。会長の思いみたいなものをまとめて書いていただければと思います。
○家本会長 確かに「はじめに」があったら確かに「おわりに」があっても変ではないかもしれません。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょう。

○和泉委員 報告書に対してではないのですが、この間の報告で、この前、秋元さんにお立ち会いいただいて、三木さんとワークシートを使ったワークショップをやらせていただいたときに、1人だけ男性がいて居心地が悪そうだったのです。御夫婦で参加されていたところが1組だったものですから。でも先ほどの御指摘のように、男性自身にとっても、非常にいいことがあると言った途端に、最初は仕方なく連れられて来たみたいな雰囲気だったのが、終了後の感想では、「自分自身のためにもなるんだということに気づきました」とおっしゃっていたので、幾つかステークホルダーを立てるとか、意義とか、そのことがはっきり書かれていると、やらされ感みたいなものが減ると思いました。

あと、最近は、SNSで「子供のためにチョコレートと一緒に作りました」という記事をお父さんがアップしていたりとかも頻繁に見るようになったので、そういう楽しそうな事例がたくさん蓄積されて、多くの人の目に増えるといいのかなと思いました。回数多く触れると、心理的に受け入れる効果が高いと言われているので、そういう政策もいいと思いました。やはり冒頭の整理の部分が重いと感じ、背策の部分は具体策が少ないように感じたので、小さなことであっても、1つでも具体的敵案が多いほうがいいと思います。

○家本会長 ありがとうございます。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 そうですね。そういうチョコをつくったりとか、その人の自己アピールの部分もあると思うのですが、それでいいと思うのです。その人にとってもそれがメリットになるし、それを見る人もいいと思う、そういう循環が起こることが大切かと思います。

○家本会長 ほかの委員の方いかがでしょう。鍋山委員、どうぞ。

○鍋山委員 先ほど白河委員の御意見のところと近いのですが、やはり独身の方とか子供がいない方も含めての暮らし方改革だと思いますので、そういう意味で言うところの意義のところ、そういう観点から見るともう一つ加えてもいいなと思ったのが、ケア的自立というのが男性もできるようになっていくというところで、そこで自分自身の健康にも気を使うことができるようになるということです。今まで男性は経済的自立ばかりで、精神的な自立とケア的自立が弱く、奥さん任せというか、他人任せだったところがあったので、そこも男性も女性もなのですから、全部の要素で自立できるようにというところも意義の1つとして挙げられるかなど。余りぶれなければですけども、挙げられるかなどと思いました。

○家本会長 古平委員、お願いします。

○古平委員 仮に「おわりに」的なページが入るならばという前提の発言になりますが、

男性の暮らし方・意識は変わったほうがいいと私も思っていますが、押し付けるものではなく、個人が選べる、選択肢があるということが大切だと思っています。ですので、「おわりに」があるのだとすると、男性の家事・育児参画が進んだ先には、一人一人が選べる、選択肢が増えるということがゴールイメージであるということを示すことができるとよいと思います。

先ほど白河委員も鍋山委員もおっしゃっていましたが、いろいろな生き方が大切にされるべきで、結婚する、子育てをする、それだけでない選択肢も認められるべきだと思いますので、いろいろな生き方を尊重するというスタンスは大切にされた方がよいと思います。

○家本会長 よろしいですか。では川島委員、お願いします。

○川島委員 今のに近いのですけれども、私もイクボスなどの講演をやっていていつも感じるのが、昭和の働き方、ジャパニーズ・ビジネスマンを否定するようなことは言っていけないなと思っているのです。要は昔のやり方は間違いで、あなたたち改めなさいみたいなトーンになってしまうのです。ジャパニーズ・ビジネスマン、24時間戦えますかがあったから今の日本があるわけだし、また、そういう働き詰めという選択も今の選択の自由ではないのですけれども、そういう選択をしたって別にいいわけです。俺は24時間365日、やはり仕事が人生なんだという人がいても別にいいわけで、過去はそういう人がいっぱいいたから、過去のそういう人を否定することにもならず、なおかつ、今それを選択する人も別にいいのではないかというのが私はあってもいいのではないかと思うのです。

女性の社会活躍なんかもそうです。女性の社会活躍も読み方を間違えると専業主婦否定になっているのではないですか。でもあれはおかしくて、別に専業主婦、子育てや家事はまさにとんでもない大変な仕事で、仕事なんか、要は職場なんかに行くよりもそちらを選択というのがあってもいいわけで、まさにこれも同じだと思うのです。それも今の「おわりに」に入れるのか、あるいは逆に初めに昔の働き方を否定するわけではない。ただ、時代が変わってきたので選択肢が増えてきた、あるいは時代に合わせてアップデートするという意識も必要ではないかみたいな、私も講演で必ず一発目にそれを入れるようにして、間違いだと反発するようなおじさんたちが出てこないような、講演の入り方をしているのですけれども、全体感もそのようなものがどこかにあったら、おじさんたちの反発を受けないかなと。一人のおじさんとして同世代から多分反発を受けてしまう可能性があるのです。

○家本会長 ありがとうございます。

いかがでしょう。よろしいですか。

一言だけ、今日最後なので5分だけお話をさせていただこうと思うのですが、まずは本当にいろいろ議論、それから、会議の進行の中で御協力いただいて本当にありがとうございます。

私自身も最初に申し上げたように5人の子育てをしながらで、会社の経営をしながらで、携帯にメールが入ると消防団の参集でホースを担ぐ、警備に行くということもやっているのですけれども、男性の暮らし方・意識という部分に関して、男性が先ほど山本委員がお

っしゃった話は、本当にそのとおりでなと思ったのですけれども、いいことをかっこよく、格好つけてみたいな話は前からあるのですが、男性はほかの男性に対してなかなか意見を言うというのは結構難しくて、同じ世代の男性同士で明らかに意見が違うなどわかっている、それを真っ向から否定しに行くとか、何か上書きしようなんていう目線で持とうと思ってもなかなかうまくいかないわけです。

なので逆に言うとポジティブトークをしながら、こんないいこともあったというのがたくさんたくさん周りに点が出ていって、結果そういう形で周りのお堀が埋まっていくみたいなコミュニケーションのとり方になることもあると思うのですが、いずれにしても社会的な影響力のある方法で、SNSもそうですし、当然、例えば今の世の中ですとアニメとかドラマによって生活感の影響力もとても大きいと思いますし、それによって本当に人生の夢が決まりましたみたいな話はたくさんあるわけです。なのでどういうふうに私たちの前後の世代の人たちがまず気づくことが、先ほどの選択肢もそうですけれども、そういう選択肢があるんだというふうに、まずこれは例えば今ここで東京で会議していますから、東京の視点にどうしてもなりがちなところが、日本全国あまねくみんなが同じような形で選択肢を気づいてくれるようになるかということについても、この後の議論で、具体的な話はすみません、確かにこの中にはそこまで細かいところではありませんが、ちゃんと重点を含めてやっていきたいと思いますし、私もそこは関わらせていただいているので、しっかりと次につなげさせていただきたいと思っておりますが、そういうところがちゃんとこの後の議論で、早い段階で来年度の話にしっかりとやっていけるようにしたいなと思っております。

先ほどから何人かの委員の方にお話しいただきましたけれども、やはり男性の暮らし方ということにそもそもフォーカスを当てる、そこをフィーチャーするという話で、今までの男女共同参画の取組の中でもそうですし、女性の活躍推進の話、働き方の話というところで、男性が目を開いてくれなければいけない話とか、男性に気づいてもらわなければいけない話がたくさんあったところを、今回は議論の立ち位置を絞らせていただいたので、これをすごく本当はいろいろ議論したいのですけれども、この短い時間の中では幅広い全部のということをやるとなかなか議論がし尽くせないので、傾斜的な手法でここに1点集中させてくださいという形での取組をさせていただきましたが、ただ、論点としてどのようなことがあるかということについては、ちりばめた範囲にきちんと残っていると思います。

この後、どちらかというところでやって報告書ができました。よかったですねというわけではもちろんないので、それから、前に川島委員からも会議のときにお話をいただきましたけれども、当然このA3の紙とこの報告書は、この後、重点に続いていく話で、それから、男女共同参画会議の報告をしていく話のところでももちろん使っていくわけなのですが、一方でいわゆる企業で言うマーケットコミュニケーションの話のときに、産業メッセージ的に何か事を伝えるのかとか、そもそも男性のというテーマの議論がちゃんとあるん

だということを知ってもらうことのためにも、何らかこの後、最終的に報告書をきちんとファイナライズしていく上での過程の中で、私自身も個人的にこの報告書の発信をしていく上でも、コミュニケーションのとり方はぜひ考えていきたいなと思っております。もしその辺でまた御意見があれば、後ほどでも結構ですのでいただければありがたいなと思っております。

ということで、事務局から何か特にございますか。一旦、お渡ししていいですか。

○岡田課長 今日はいろいろ先生方、御意見、御指摘いただきまして、会長と御相談して、またさらに改善ということで作業をさせていただくことになると思いますけれども、若干復習させていただきたいと思います。

和泉委員から、3ページで分かりにくいという御指摘がありました。これは確かに長過ぎますので分けます。唐突感があるというのも場所を考えたいと思います。

満足度のところで、これが何か分かりにくいというお話をいただきました。実は満足度の御議論があってデータをいろいろ探した中で、図表10は家事・育児の分担に関する満足度ということでバックデータを添えておりますので、ここで言っているのは分担の満足度ということではございます。

14ページは対象を絞ってよかったという御指摘だったかと思えます。

伊藤先生からは若年世代、もっと若い子もというお話をいただきました。実は対象は一応、国民全般である書きまして、当面、念頭に置くべきものということで3つ出しましたけれども、確かに前に調査会でも御意見をいただいておりますので、会長と御相談して検討させていただきます。

川島委員から、今までの先生方の御議論を整理したつもりだったのですが、もう少しわかりやすいように整理し直したいと思えます。

キャッチーな形ということも、なかなか報告書の形ですと、そこにキャッチーな言葉を入れるというのは難しいということがありまして、先ほど家本会長がおっしゃっていた、打ち出していく際のキャッチフレーズみたいなものを御相談して考えていければと考えております。

古平委員からは、世論形成のところを工夫したらという御指摘をいただきました。御相談して整理したいと思えます。

白河委員からは、「はじめに」の部分で、これが男性の方々に見ていただくことを想定して、成長戦略として女性の活躍というのが打ち出されていたということを書いてはどうか。また、ほかの国では競争力の向上ということも考えられているということを書いてはどうかということをお願いしております、これも整理させていただきます。

23ページ、広報のところは少子化担当にお伝えできるように、政策を具体化していく中で考えていきたいと思っております。

11ページの少子化は、整理する中で結構前のほうに書いたということですが、ほかの意義については先生方からいろいろ御指摘いただきましたので、全体を整理する中で

整理させていただくことになると思います。働き方改革についても御指摘がありました。

鍋山先生から、父と母だけで家族の中で閉じたように捉えられないようにという御指摘がありましたので、そこはどのようなところで加えるか、また会長と御相談したいと思います。

ロールモデルについても、ロールモデルという言葉自体は載せていないのですけれども、それを示すようなことは載せているつもりではありましたが、少しはっきりさせるように御相談したいと思います。

西本委員からは、定義のところでは何とかにとってはと分かるようにしたらと御指摘いただきまして、報告書ではそのように書いていたので、概要のほうでも変えるようにしたいと思います。

三木先生から、23ページで男性に向けて広報啓発資料もと御指摘があつて、イのところが一応男性向けというつもりで整理していたのですけれども、それがぱっと読んでいただいた方にもおわかりいただけるように、少し工夫をする必要があるかなと思いました。

26ページですけれども、夫の目標しかない。夫の目標が立てられていますので、このポスターでは夫のところには150分が目標と書いてありますが、御指摘のように家事・育児を減らしていくことができるということを少し、今でも次のところで記載したつもりではありますけれども、それがはっきりするように工夫することで会長と御相談させていただきたいと思います。

山本委員からは、コミュニケーションのスケジューラーの共有ということで、場所をとるというお話がありました。これも会長と御相談して整理させていただきたいと思います。

その後、白河委員と鍋山委員から、ほかの人たち、独身の方とかお子さんがいらっしゃる方々のことも触れるようにということで、それは鍋山先生からも意義のところを書いてはどうかという御指摘がありましたので、それも会長と御相談して書くということでやらせていただきたいと思います。

「おわりに」は会長と御相談ということでございます。

以上でございます。

○**家本会長** 私の手元のメモでもおおむね今、御指摘いただいた内容のところは網羅したと思うのですけれども、ほかに漏れていたりとかありますか。もしくはコメントいただくべきところ。

○**山本委員** 念のため、私の25ページの広報の展開の中で、既にやっている男性のポジティブな声を可視化するというのも一応、御認識いただいていると思うのですけれども、お願いします。

○**家本会長** いろいろありがとうございます。たくさん追加の御意見をいただきました。

この後、公表する前の段階で今、いただいた御意見の内容、それから「おわりに」というところについても同じですけれども、この報告書をさらに追加、修正させていただきながら取りまとめをしていきたいと思っています。

皆さんからいただいた御意見については、この後の公表まで会長である私に御一任をいただくという形でお願いしたいのですけれども、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○家本会長 ありがとうございます。

それでは、予定の時間より早いのですけれども、スタートも早かったということで、これで「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」を終了させていただきたいと思えます。お忙しい中、本当に長期にわたりまして御協力いただきましてありがとうございます。終わります。ありがとうございます。